

研究課題名: 膵癌における Trefoil Factor Family peptide の発現と臨床病理学的因子の検討に関する情報公開

1. 研究の対象

2005年1月1日～2014年12月31日に当院で膵癌の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

膵癌は日本で第7位、欧米諸国で第4位の死亡率を占める疾患であり、今後もその罹患率は増加することが予測されています。腫瘍の完全切除は治癒に必須ですが、切除後の再発率も非常に高く予後の不良な癌の1つです。これまでに多くの臨床病理学的因子や分子マーカーなどが発見され、重要な予後に関与する因子として認められてきましたが、このような進歩にもかかわらず膵癌のメカニズムは完全に解明されていないのが現状です。

近年の研究により膵上皮内腫瘍性病変、膵管内乳頭粘液性腫瘍、粘液産生膵腫瘍などの幾つかの前癌病変から膵癌が形成されることが明らかとなってきました。さらに前癌段階においていくつかの粘液タンパクの発現様式に違いがあることがわかってきました。

Trefoil Factor Family peptide (TFF) は粘液産生細胞から分泌されることが以前より報告されている粘液関連タンパク質の一つで、TFFと粘液タンパク質の一つであるムチンとの相互作用が粘膜の修復に重要であることがわかりました。その中の一つであるTFF1は正常の膵上皮細胞では発現していませんが、膵炎や膵癌状態になると、膵上皮細胞での発現が誘導されます。加えてTFFは様々な領域の癌でもその発現が確認されていますが、TFFの発現と臨床病理学的検討およびその予後には一定の見解を得られていないのが現状です。

われわれはTFFとこの粘液タンパク質の相互関係に着目し、膵癌組織におけるTFFの発現と臨床病理学的な特徴及びその予後を比較検討することで、今後の膵臓癌の診断および治療戦略の獲得が可能になると考えています。

2005年1月1日から2014年12月31日までに膵臓癌に対して手術を受けられた患者さんの検体を用いて、臨床所見・組織学的所見・腫瘍の進行度・術後無再発生存期間・全生存期間とTFFの発現の相互関係を検討します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料： 手術検体

情報： 主訴、性別、年齢、既往歴、診断日、血液検査所見、CT画像所見（化学療法前・後）、治療内容、治療期間、手術日、治療無効確認日、再発の有無、最終生存確認日、等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学

TEL：052-744-2222 FAX：052-744-2320

研究分担者：

名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍外科学・助教・山口淳平

名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍外科学・医員・砂川真輝

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍外科学・教授・榑野正人